

海ごみゼロウィーク

ガイドライン

海ごみゼロウィーク

世界中では年間約800万トンの海洋ごみが発生しており、2050年にはプラスチックをはじめとする海洋ごみの量が、魚の量より多くなるとも言われています。

この海洋ごみの約8割は、陸(街)で発生したものが川を伝って海に流れ出したものとされています。

海洋ごみの問題は、国民全員が海洋ごみの問題について考え、行動しなければ解決することは難しい大きな問題です。

ごみを捨てない、ごみを出さないという強い意思を日本全体に広げ、海に関心を持つ人を増やし、海の未来を変える挑戦をしていきましょう。一人ひとりの行動が海の未来を変えることに繋がります。



プラスチック・スマートとは？

環境省では、海洋プラスチックごみ問題の解決に向けた取組として、 unnecessary のプラスチック排出抑制や分別回収の徹底など、“プラスチックとの賢い付き合い方”を全国的に推進し、取組を国内外に発進する「プラスチック・スマート」を2018年10月に立ち上げました。

CHANGE FOR THE BLUEとは？

国民一人ひとりが海洋ごみの問題を自分ごと化し、“これ以上、海にごみを出さない”という社会全体の意識を向上させていくことを目標に、日本財団「海と日本プロジェクト」が推進しているプロジェクトです。海の豊かさを守り、海にごみを出さないという強い意思で日本全体が連帯し、海に関心を持つ人を増やし、海の未来を変える挑戦を実現していきます。

海ごみゼロウィークは、「CHANGE FOR THE BLUE」プロジェクトを推進する日本財団と「プラスチック・スマート」を推進する環境省との共同事業です。

本取り組みにより、日本全体で国民を巻き込んだ清掃活動を実施することで、海洋ごみ問題の周知啓発とともに、海洋ごみを出さないという意識を醸成することを目的としております。

海洋ごみについて考えよう

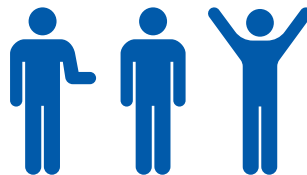
海洋ごみは、私たちの普段の生活から生み出されています。適切に処理されなかったり、ポイ捨てされたりしたごみが、川や海岸から海に入り込んで海洋ごみになります。中でもプラスチックごみは、紫外線を浴びるともろく崩れやすくなる性質があり、波や風の力等で細かく碎かれ、5mm以下のものはマイクロプラスチックと呼ばれます。海を漂うプラスチックを海鳥やウミガメ等の海洋生物が誤って食べてしまい、命を落とすことがあります。また魚が口に入れてしまったマイクロプラスチックが食物連鎖の過程で人の体に入り、表面に付着した有害物質が人体に影響を与える可能性もあります。海洋ごみ対策には、私たちの身の回りにあるごみを拾い、これ以上海にごみが流れ出てしまわないようにすることも非常に大切です。

海洋ごみ発生の原因

製造・流通



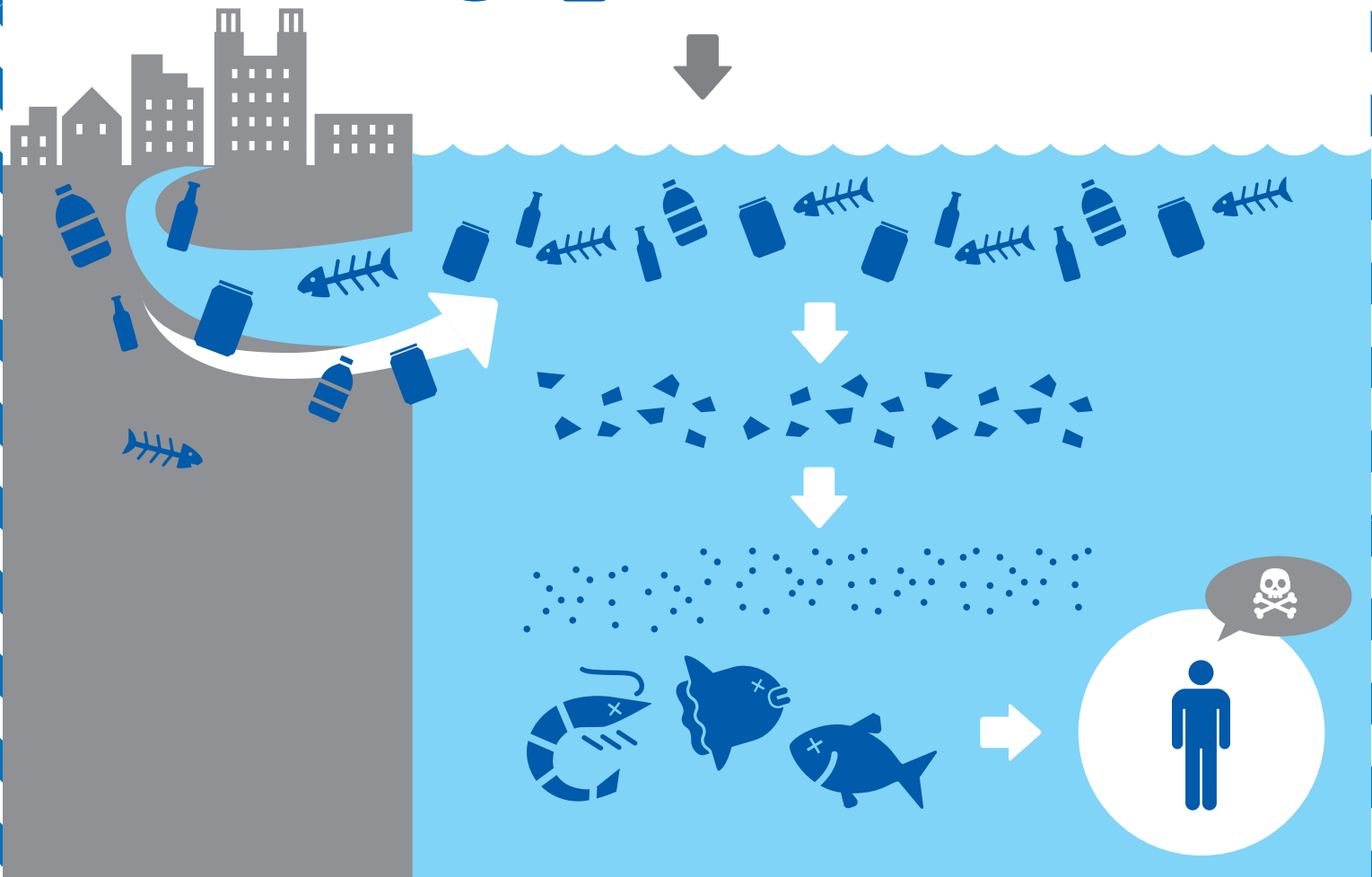
わたしたちの生活



ゴミ処理



適切に処理されないごみ



注意点

服装

- 日中は帽子をかぶるなどして熱中症に気をつけてください。
- 草むらなどで活動する場合は、長ズボンを履くなどして害虫や障害物などに気をつけて行動してください。

持ち物(軍手、トングなど)

- 危険物やプラスチックごみなどで怪我をしないように、軍手やトングを使うなどして活動してください。

熱中症対策

- こまめに水分補給を行い、熱中症には気をつけて行動してください。

ごみの分別

- 各自治体のルールに従って、ごみの分別を行ってください。

水事故

- 水際での活動は十分に気をつけて行動してください。
- 小さいお子様が1人で水際で行動しないよう管理者は配慮してください。
- 大津波警報・津波警報・津波注意報が発表された場合はすぐに高台などの安全な場所へ避難してください。
また、浸水地域や避難場所、避難経路などを予め確認しておくなど、万一来に備えましょう。

粗大ごみの処理

- ごみ袋に入りきらない大きなごみなどは、各自治体の指示に従って処理をしてください。

ごみ袋の数を数えてください

- 回収したごみ袋の数は報告フォームにてご報告頂きます。
可燃、不燃ごとに回収したごみ袋の枚数を数えてください。

報告用の写真を撮影してください

- 報告の際に活動写真を投稿頂きます。参加者が集合している写真や回収したごみ袋などの写真を撮影し、ご報告の際にご登録をお願いします。

団体責任者の指示に従って行動してください

- そのほか細かい指示に関しては、団体の代表者の指示に従い、海ごみゼロウィークにご参加ください。